



石版画

Sarah Joe 作

「春、食糧を求める家族」

1984

(48.5×69.5 cm)

北方民族博物館だより

—第18号—

新収蔵資料展	2
博物館クラブ／講習会	4
Q & A／移動展情報ほか	5
News	6

新収蔵資料展・2

Northern Collection

4月25日—5月21日

北方民族博物館が開館してから、今年度で5周年をむかえます。これまで当館では、広く世界の北方地域にくらす民族の資料を収集してきました。また湧別町において、平成3年度から平成5年度の3ケ年にわたり、川西遺跡のオホツク文化期の^{たてあな}竪穴住居跡を中心に発掘調査を続け、考古資料を収集してきました。

今回の第2回新収蔵資料展（4月25日～5月21日）では、平成5年度、6年度に収集した資料を紹介しました。

北方民族博物館の資料収集活動について

博物館の活動は、常設展示や特別展示などの「展示」、講座や講習会の開催や出版などの「普及活動」、北方文化や発掘にかかわる「調査研究」、また調査研究の基礎となる「資料収集・保存」の4つが大きな柱になっています。

これらの活動のなかで、「資料収集」活動は調査研究とともに、博物館では最も重要なものであると位置づけています。

平成5年度、6年度の資料収集の状況としては、民族資料は、平成5年度にはアイヌの新作工芸資料、イヌイト(エスキモー)やスレーヴ・インディアンのベルトなどを、平成6年度にはシベリアのコリヤークの衣服やお守り、イヌイトの彫刻や版画、北西海岸インディアンの仮面などを、あわせて358点収集しました。また映像資料は、北海道アイヌ、イヌイトの映像を中心に36本を購入しました。

考古資料では、平成5年度は900点の資料を、平成3年度からの3ケ年では4,153点の資料を発掘調査により収集しました。

このほか、開館以来、多数の貴重な資料を寄贈していただいています。



新収蔵資料展の展示

今回の資料展では、平成5年度、平成6年度に収集した資料のうち、81点の資料を地域などにわけて展示しました。

◆コリヤークの資料

今世紀の前半頃を中心に収集された37点のコリヤークの資料のうち、ビーズの装飾のついたトナカイ皮製の女性用ダンスパーカ、^{いぬぞり}犬籠に乗るときに着るトナカイ皮製のつなぎ服をはじめ、ハンノキ製のスプーンや皿、儀礼ダンス用の太鼓、護符(写真1)など19点を紹介しました。

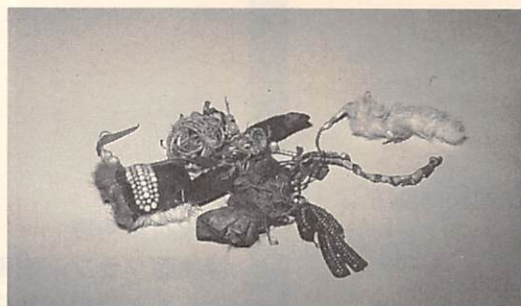


写真1



写真2

◆北西海岸インディアンの資料

クワキウトルのものと思われるたて笛やトリンギットの長衣とすねあて、仮面を展示しました。この仮面は、左右に扉が付いていて、外側は夜空を表し、開けると夜明けが表現されるようになっています（写真2）。

◆イヌイトの資料

今回数多く収集したソープストーン（石鯨石）でできた彫刻（写真3）、版画を中心に紹介しました。これらの彫刻や版画のモチーフには、イヌイトの狩猟の様子や彼らと関わりの深い動物が用いられています。



写真3

◆アイヌの資料

二風谷や旭川在住のアイヌの方が製作した針入れ、小刀、えもん掛け、編袋、盆などを8点紹介しました。

このほか、ミクマック・インディアンのクイル細工樹皮製箱がありました（写真4）。染色したヤマアラシの刺で装飾された白樺樹皮製の箱で、1860年頃の資料です。また、1900年頃に作られたチペワイヤン・インディアンの白樺樹皮製カヌーも展示しました。

◆考古資料

土器、骨刀、有孔円盤^{めうこう}など10点を展示しました。

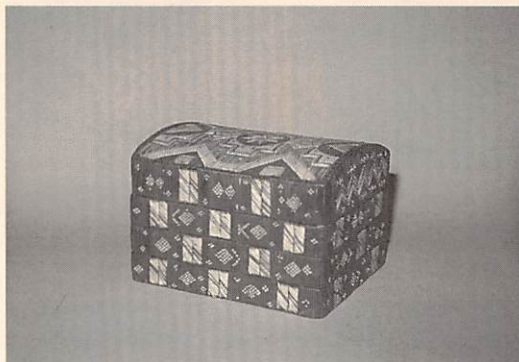


写真4

開館以来収集してきた収蔵資料は、平成6年度末で、民族資料2,709点、考古資料6,416点、映像資料102点、合計9,227点になりました。この間、さまざまな方から資料収集に関するご協力、情報をいただきました。また、多数の貴重な資料も寄贈していただきました。あらためて感謝申し上げます。

今後とも、資料の保存に努めるとともに、常設展、特別展などで、多くの来館者の方々にご覧いただけるようにしていきたいと考えています。

（学芸課 佐々木 亨）

博物館クラブ

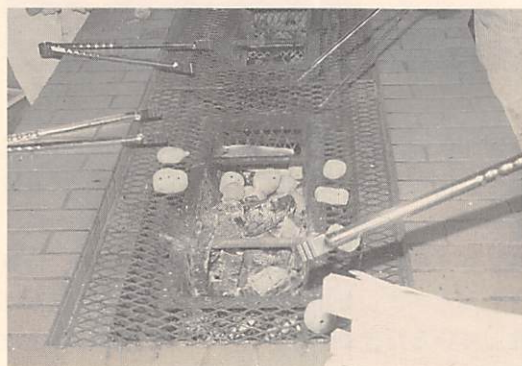
博物館クラブは小中学生のみなさんが北方民族や古代の生活の知恵や技術を体験する場です。

これまでの土曜セミナーを博物館クラブに名称変更をし、第2、第4土曜日を中心にもよおしを企画しています。



■『インディアンの仮面づくり』5月13日

当館所蔵の北西海岸インディアンのオオカミの仮面をお手本につくりました。



■『粘土クラフト・土笛づくり』

6月10日、6月24日

10日には粘土から土笛の形をつくり、2週間乾燥させました。24日には博物館の近くにある、道立オホーツク公園てんとらんど内で、土笛を焼きました。

残念ながらいくつかの土笛は焼いている途中で割れてしまいましたが、うまく焼けた土笛は、ピーッという甲高い音や、ぼーぼーといった低い音が出て、にわか合奏団の演奏会になりました。

講習会

■『インディアンのボタンプランケットづくり』

6月18日(日)

講師 笹倉いる美(当館学芸員)

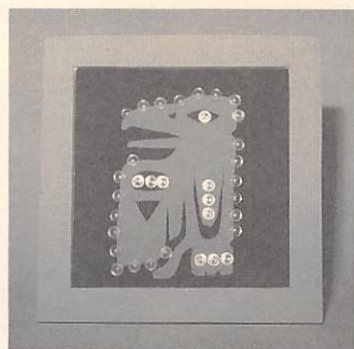
ボタンプランケットは北西海岸インディアンのクワキウトルの儀礼用衣服です。四角い形で、マントのようにはおって、首のところでとめます。

特に濃い紺色がこのまれ、ここに家の紋章などをアップリケし、貝やボタンでふちどりしました。クワキウトル以外の北西海岸インディアンにもひろまっています。

講習会では20×20cmのサイズのものを作ることになりました。当館所蔵の資料からサンダーバードの図案をとりました。サンダーバードは北西海岸インディアンの伝説にでてくる鳥で、羽ばたきをするとう雷がおち、目からは稲光がでるといいます。

まず、サンダーバードの形に切りぬいたフェルトを、地のフェルトに縫い付けます。それから、ボタンをつけていきます。

参加者はみなおなじ図案でつくりましたが、それぞれに工夫をこらし、最後に枠をつけて完成しました。



Q

新収蔵資料展に展示してあった、イヌイトの版画に大変興味をもちました。

製作法などについて教えてください。(表紙参照)

A

イヌイトの版画は実は日本と深いつながりがあります。

ジェームズ・ヒューストンというカナダ人がカナダ北西のケープ・ドーセットという村に住んでいました。ある日、砕氷船で運ばれてきたタバコの箱をみたイヌイトの一人が、同じように絵を描くのはたいへんではないのかと尋ねました。

そこで、ヒューストン氏はイヌイトが作っていた^{きば}細工にインクをぬり、紙にその図柄を写しとって、印刷の実際をみせてみました。

この時からヒューストン氏は、イ

ヌイトが版画をとりいれることができないかと考え、版画作りについて学びはじめました。そして、日本の版画の中に、イヌイトの芸術に「何世紀の間流れていた、力強く直接的なイメージがあるように思われ」、来日して日本の版画作りを学んだのです。

そして1959年からケープ・ドーセットで、組織的な版画グループが活動をはじめました。浮世絵のように下絵描き、彫刻、刷版が分業になっています。木のかわりに、かつては鍋やランプを作っていた石^{なべ}をつかって彫り、和紙に印刷をしています。

ケープ・ドーセット村以外の村でも版画作りが行われるようになり、その芸術性が高く評価されています。

(学芸課 笹倉いる美)

7・8・9月のもよおし

7月1日～9月8日

第10回特別展「大河アムールの民・ナーナイ」

7月8日

博物館クラブ「ペーパークラフト ナーナイ風ペンスタンドをつくる」

8月5日

講習会「ドンカーンの木彫り教室」

8月6日

講演会「ナーナイ・現在から未来へ」

8月10日から

北方考古学セミナー(全7回)

8月12, 18日

博物館クラブ「粘土クラフト土笛作り」

9月9日

博物館クラブ「ムックリづくり」

※詳細はお問い合わせ下さい。

■開館5周年記念移動展

『ノーザン・ピープルズ～北方地域にくらす諸民族～』

平成7年10月4日(水)～10月10日(火)9:00～21:00(10日は16:00まで)

会場 道民活動センタービル(かでの2.7)1階展示ホール

(札幌市中央区北2条西7丁目)入場は無料です。

北方民族博物館が開館して5周年をむかえます。これを記念して札幌市で移動展を開催します。スカンディナヴィアからシベリア、サハリン、北海道、アメリカ大陸までの北方地域にくらす人びとの、文化と歴史を民族ごとに紹介します。また、企画展にあわせてお茶の水女子大学教授の原ひろ子氏を講師に講演会を開催します。



■講演会

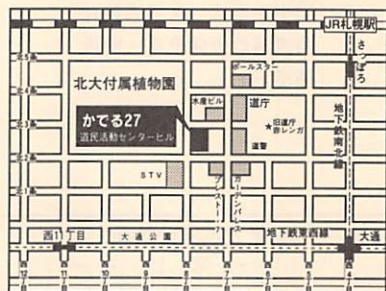
『極北のインディアンについて』

講師 原ひろ子氏(お茶の水女子大学教授)

平成7年10月8日(日)14:00～15:30

会場 道民活動センタービル(かでの2.7)8階820研修室

カナダ極北にくらすヘヤー・インディアンの生活と文化を紹介します。聴講は無料です。



執筆から贈呈を受けた書籍

- 高橋博信 1980
「浮世絵三昧」 有田書房
- 津曲敏郎 1995
「鄂温克語三方言対照基礎語彙集」
小樽商科大学言語センター

観覧者動向 (4月～6月)

	常設展
4月	1,512名
5月	4,487名
6月	3,886名

主な来館者

- 4月6日 マーティン・ジョーンズ氏 (ケンブリッジ大学教授)
- 5月7日 木村汎氏 (国際日本文化研究センター教授) 他6名
- 5月28日 カナダ・ポートアルバーニ市訪問団
- 5月28日 北海道文化財保護協会一行
- 5月30日 野口邦夫氏 (大蔵省主計局文部第二係長)
田中正幸氏 (文部省教育助成局地方課庶務・助成係長)

みんぞく

こうこ

はくぶつかん

IN HOKKAIDO (4月～6月)

- 4/10 アイヌ語研究家魚井一由さんユニーク辞書を発表/D
- 4/15 小樽市手宮洞窟保存館公開/Y
- 5/1 高規格道路建設用地に旧石器時代の遺跡多数・白滝村で本年度から大規模調査/D
- 5/2 サハリン残留邦人一時帰国団メンバーのウイルタ女性来網/D
- 5/18 常呂遺跡の発掘、保存運動に尽くした故大西信武氏の足跡をまとめ出版/Yほか
- 5/22 釧路・春採アイヌ古式舞踊釧路リムセ保存会が米国で公演へ/D
- 5/24 釧路でアイヌ民芸作品展・直径70センチメートル木彫り皿も/A Sほか
- 6/8 帯広市教育委員会がアイヌ文化の研究家・故吉田巖氏の資料集を発刊/A Sほか
- 6/27 阿寒の床ヌプリさん、ユーカラをテーマにした木彫りの写真集「カムイ・ミンタラ 神々の遊びの庭」出版/A Sほか
- 6/29 小学校社会科の教科書でアイヌ民族より詳しく記述/D
- A S 朝日新聞 (道東北網版)
D 北海道新聞 (オホーツク版)
Y 読売新聞 (北網版)

その他の主なもよおし

5月5日「こどもクラフト工房」
こどもの日に、北方民族のおもちゃを作ってあそぶ、こどもクラフト工房を開催しました。



お知らせ

5月19日に北方民族博物館を管理運営する財団法人北方文化振興協会の理事会を開催しました。役員を改選し、理事長がかわりました。

- ◇ 前理事長 林 幸夫
◇ 新理事長 大林 宏文

職員の異動

- ◇ 転出 (6月1日付)
管理課係長 牧野 義則
(北海道教育庁企画管理部給与課主査へ)
- ◇ 転入 (6月1日付)
管理課係長 小田 義人
(北海道教育庁根室教育局経理施設係長から)

編集後記

今号から編集担当がかわりました。
どうぞよろしく。

(学芸課 笹倉いる美)